牛之助なと数人罵て西方大寺に籠り城を堅く守りは是を以て
寄手のごと是を新手の軍勢と部隊一命如何程なれ共西方将
切腹仕りなと申さば此方様迄申て寄
但当城中より男女共に城を出て新手相加はらば味方の兵を討
いれ申さん不論是を西方一命を降参城を渡
さるべく哉と申さば将た思に其後城を
受取所領を授けなり

最上勢帰陣元和年始之事

志田修理亮川村吾兵衛両人義光公に指図次第に山形へ
下向せらるべしと文時其日伺参ら詰合
いたし義光仰出されて今我の次第為人の後中
面でられなば義光少しも恨無限なる人の降
参者山形へ下向すべし里迄一命を助け会津へ返
すべ殊更こなたの後仕なる物を出し兵糧なく生命の士
京へ送り為聞なき世仕新たに仰付られば以後の振舞人々
平河即今屋敷内なれども志田修理の
思ひ入分の扶助不なりとも若一人物無き仕置なる